

令和7年度（公財）松山観光コンベンション協会事業計画

■活動方針

2024年の観光状況は、国内旅行については観光支援策の終了や国内の物価高の影響などにより、宿泊者数は伸び悩みとなりました。また、海外旅行についても円安や世界的な政情不安などにより回復は遅れている状況ですが、訪日旅行については円安および物価安などの影響で、過去最高の3,686万人となりました。

松山市においては5年半の保存修理工事中であった道後温泉本館が4月には改築130周年を迎え、7月には全館営業再開となり、2025年2月には観光経済新聞主催の「第38回につぼんの温泉100選」で、過去最高の2位に選ばれるなど、国内外から注目を集めました。また、9月には四国・松山の玄関口として商業エリアを併設した新しいJR松山駅がオープンし、賑わいの創出に期待が高まっています。

2025年は、大阪・関西万博が開催されることから世界中から日本を訪れる人がさらに増加すると想定されています。四国関係では、「瀬戸内国際芸術祭2025」が開催されるほか、高知県出身の漫画家やなせたかしさんをモデルとした朝ドラ「あんぱん」が放映されるため、特に上半期にかけて国内はもとより海外からの来訪増加が期待されます。こうした大規模イベントなどでインバウンドを含めた旅行者に対して、時機を逸することなく、松山へ誘客して消費拡大につなげていくように、計画的に取り組んでいきます。

まず観光分野では、観光に携わる関係者が観光地経営への理解を深め、地域一体となって持続可能な松山の観光振興に取り組んでいくため、昨年度、官民が参画して発足した「松山の観光を考える会」を中心に、地元ステークホルダーの意見もいただきながら、令和8年度からの当協会の観光振興計画策定に向けて取り組んでいきます。

受入分野では、松山の到着窓口でもある観光港やJR松山駅の観光案内所での対応を特に重視し、増加が期待される海外からの訪問客に松山を楽しんでいただけるように、きめ細やかな窓口対応に努めます。また、観光ボランティアガイドの会と連携し、松山城、道後温泉を中心としたおもてなし案内に継続して取り組みます。

物産分野では、仙台市・藤崎百貨店での物産展を継続して実施し、愛媛・松山の魅力発信および東北地方からの誘客に努めます。また、従来からの他団体等が主催する観光キャンペーンや他県で開催されるイベントに参加し、より効率的に本市の魅力を発信するほか、MICE開催時のミニ物産展開催などにより売上の増大に取り組みます。

MICE分野では、令和5年度に協会が作成した「MICE指針」に基づき、観光庁支援事業の採択を受け地元ステークホルダーや近隣都市と連携した国際会議及び海外ミーティング・インセンティブの受入事業に取り組んできたことから、引き続き更なる磨き上げを行うことでMICEの推進を図ります。また令和7年度は令和5年度国際会議誘致・開催貢献賞（誘致の部）を受賞した『第29回高圧力科学と技術に関する国際会議（AIRAPT-29）』の開催年度であり、開催に必要なハラル・ヴィーガンなどの受入体制、日本・松山らしさを演出したユニークベニューの開催による本大会の成功を通じて国際会議都市「松山」としてのプロモーションにも繋げていきます。

協会としては、引き続き、愛媛県・愛媛DMO・松山市等と連携して戦略的な事業に取り組むことで、観光交流人口拡大を目指し、地域経済活性化のために観光消費を取り戻していく事業を実施していきます。

I. 公益目的事業別事業計画

1. 観光・物産振興事業（公益目的事業1）

予算総額 89,083 千円

（人件費を除く。以下同じ）

今年度は、松山の持続可能な観光振興に取り組んでいくため、ステークホルダー（賛助会員等）によるネットワークを立ち上げて議論を進めながら、当協会の観光振興計画策定に取り組むとともに、交通・観光の拠点に所在する案内所の利便性向上やボランティアガイドの人員確保等による受入環境を整備し、関東以北からの誘致機会の創出、インバウンド等を対象としたコンテンツ開発等を進め、プロモーションを強化することで更なる誘客に努める。

（1）おいでんか松山観光客誘致促進事業

支出予算 2,000 千円

受注型企画旅行で送客のあった旅行会社等を通じバス等の借上げ料に対して、その経費の一部を助成し、賛助会員の施設利用の促進とともに、市内への経済効果の充実に図る。

（2）松山マドンナ大使関連事業

支出予算 3,137 千円

公募により選出された3名の松山マドンナ大使の派遣活動等を通して、当協会事業での観光・物産PRや行政機関等が主催する事業にも参加して観光客誘致を効果的に行うとともに、Instagram等SNSを活用して幅広く情報発信を行う。

派遣予定事業：松山市主催事業、当協会主催事業 ほか 約40件

【2025年度松山マドンナ大使】



（左から みやわら えく 宮村 規功、ながい ねお 永井 寧緒、かい まなみ 甲斐 愛美）

(3) 観光PR事業

支出予算 4,547 千円

新聞や雑誌、デジタル等の各種広告媒体を活用し、効果的かつ効率的な広報宣伝事業に取り組むとともに、イベント等の事業実施を通して、愛媛・松山ならではの特色ある観光施設や最新の観光情報発信を行うことで、知名度向上につなげる。

① 広告宣伝事業

- ア. 雑誌、新聞等への広告等
- イ. 愛媛 FC、愛媛マンダリンパイレーツ、愛媛オレンジバイキングスの試合会場への看板掲出
- ウ. 愛媛マラソン手荷物預かり袋広告制作
- エ. Instagram 等 SNS を活用した観光 PR

(4) 観光プロモーション事業

支出予算 26,163 千円

昨年発足した「松山の観光を考える会」の活動を元に、地域が一体となって持続可能な松山地域の観光振興に取り組んでいくために、議論をさらに進めていく。また、インバウンドをはじめとする観光需要に応えるために、ナイトタイムコンテンツの開発を進め、消費拡大を目指す。

① 「松山 DAY in 神宮球場」観光キャンペーン（協力：ヤクルト球団）

- 期 日 2025 年 8 月頃（調整中）
- 場 所 神宮球場
- 内 容 東京ヤクルトスワローズの神宮球場ホームゲームにおいて野球ファンのみならず、来場者に対して松山市の観光宣伝等を実施し、認知度向上につなげる。

② ヤクルトファン感謝 DAY（協力：ヤクルト球団）【拡充】

- 期 日 2025 年 11 月頃（調整中）
- 場 所 神宮球場
- 内 容 東京ヤクルトスワローズの神宮球場ホームゲームにおいて松山市の観光及び物産販売を実施し、関東圏域を中心に認知度向上につなげる。

③ 東北地方での観光交流事業（観光 PR 展）

- ア. 2025 年第 41 回青葉まつり（調整中）
 - 期 日 2025 年 5 月 17 日（土）～18 日（日）
 - 場 所 仙台市
 - 内 容 仙台の初夏を彩り、仙台三大まつりの一つとして、仙台市民はもとより東北圏域から多くの方々が来場される「青葉まつ

り」に出展し、愛媛・松山の情報を発信することで、認知度向上及び誘客に努める。

イ．第 62 回政宗公まつり

期 日 2025 年 9 月頃

場 所 大崎市

内 容 約 250 人の武者など総勢 1,000 人の行列が、1.4 km にわたって通行止めにされた大通りを歩く歴史あるイベントに参加している宇和島市の協力を得て、松山の観光 PR を実施することで、東北圏域からの誘客に努める。

④ 持続可能な観光地域づくりに向けた取り組み 【拡充】

昨年発足した「松山の観光を考える会」において、観光に携わる関係者が観光地経営への理解を深めるとともに、地域が一体となって持続可能な松山地域の観光振興に取り組んでいくために議論を進める。

具体的には、ステークホルダー（賛助会員）の意見や外部専門家のアドバイスをいただきながら、令和 8 年度からの当協会の観光振興計画策定を目指す。

⑤ ナイトタイムコンテンツ造成への取組 【新規】

インバウンドをはじめとする国内観光客等の地域内消費の拡大を目指すため、ナイトタイムコンテンツの造成に取り組む。

具体的には、市内繁華街を中心に飲食店等を周遊できるコンテンツを開発し、松山を訪れる観光客や MICE で来松される方への利用促進につなげる。

⑥ 松山の観光 PR 事業（台湾）

ア．台北市政府関係者招聘事業 【新規】

期 日 2025 年 時期未定

内 容 2024 年 10 月、松山市と台北市が友好交流を締結して 10 周年を迎え、今後も継続して交流を深めていくため、台北市政府関係者等を松山に招聘してのレセプションを開催する。市政府関係者との交流を密にすることで、愛媛・松山を台北市の方に効果的に情報発信し、認知向上につとめ、更なる交流人口の拡大を図る。

イ．台北温泉まつり

期 日 2025 年 10 月（予定）

場 所 台北市

内 容 松山の観光 PR ブースを出展し、松山の伝統文化の紹介や観光情報提供等の PR を実施し、認知向上に努める。

ウ．2026 台北ランタンフェスティバル

期 日 2026 年 2 月（予定）※旧暦 1 月 7 日頃

場 所 台北市

内 容 台北市政府協力のもと、松山を PR するランタンオブジェや観光ブースを出展し、台北市はもとより台湾全土から来場される方々にも松山の魅力や観光情報を提供し、誘客につなげる。

(5) 物産と観光展事業 **支出予算 12,474 千円**

仙台で開催する物産展において、集客のための新たな企画や新規店舗の開拓を行うとともに、仙台市の姉妹都市である宇和島市にも協力を得ながら、東北圏域からの誘客と物産における販路拡大を目指す。

① 松山の物産と観光展（仙台市）【拡充】

期 日 2025 年 11 月中旬（予定）2 週間程度

場 所 宮城県仙台市 藤崎百貨店

内 容 松山市が取り組む「瀬戸内・松山ツーリズム」（広島—愛媛の広域観光周遊ルート）と連携した誘客、松山—仙台直行国内線の運航再開を目的として実施する。

（新規取組）藤崎百貨店の協力を得て、富裕層向けのプランの提案や松山—仙台の旅行商品造成等への補助を行うことで、松山への誘客につなげる。

② その他

適宜、愛媛県および松山市、愛媛 DMO 等が実施している観光キャンペーン等とも連携し、物産販売や観光 PR を実施するほか、他県等が開催するイベントに出向いて PR に努める。

(6) パンフレット等の作成・頒布事業 **支出予算 1,411 千円**

松山の食を紹介する「海ごはん」や松山をイメージするポスターの作成及び松山の観光 PR 広告掲載等により、観光客誘致を行う。

旅行中の満足度向上を図るため「食」については、ホームページ上での紹介を充実させるとともに、分かりやすく検索しやすい環境を整備し、随時内容の更新にも努める。

① 瀬戸のまつやま「海ごはん」MAP

② 松山観光ポスター（新規）

道後温泉、松山城の新たなデザインのポスターを作成する。

(7) 観光案内所運営事業

支出予算 34,092 千円

観光客等への窓口として、松山市内 5 ヶ所において観光案内所を設置し、松山市及びその周辺の地域の観光地や宿泊施設、地域資源等のタイムリーな情報発信を行うことにより、観光客への利便性、都市イメージの向上を図る。

また、JNTO が定める外国人観光案内所の認定制度について、全ての案内所でのカテゴリー認定を目指すとともに、業務効率化にも取り組む。

＜観光案内所＞

- ① JR 松山駅観光案内所
- ② 松山観光港案内所
- ③ 道後温泉観光案内所
- ④ 松山城駅舎観光案内所
- ⑤ 愛媛・松山観光インフォメーションセンター（松山三越内）

(8) 松山観光ボランティアガイド事業

支出予算 5,259 千円

ガイド事業やガイド養成講座の開催を通して、市民、観光関連団体、行政が一体となってガイドのスキルアップや育成を行い、「おもてなしの心」で国内外の観光客をお迎えする。

また、持続可能なガイド事業に向けて、「松山観光ボランティアガイドの会」と連携して、会員資格要件や募集方法の見直しも含めながら会員確保にも取り組んでいく。

＜観光案内コース＞

- ① 道後温泉周辺
- ② 松山城
- ③ 坂の上の雲ミュージアム周辺 など

その他

松山市、松山商工会議所と共催で開催している「ふるさとふれあい塾」を引き続き実施し、大学生など若い力や視点を観光ボランティアガイド活動に取り組めるよう推進するほか、松山市が取り組む「松山ユニバーサルツーリズム」（SDGs）に参画し、障がい者など多様な人が安心、安全で快適に旅行できる持続可能な観光未来都市の実現に取り組む。

2. コンベンション推進事業（公益目的事業2）

予算総額（支出）54,564 千円

会議施設や宿泊施設など分野ごとにコンベンションの開催情報を共有し課題・問題の検討を行うなど受入サービスの充実を図るとともに、令和6年度に観光庁事業で取り組んだ「MICE 人材の確保・育成」や「海外 MI 向けコンテンツ造成」を活用して県内及び近隣の市町と連携した受入体制の整備や海外での商談会、企業向け情報発信ツールを活用し積極的なプロモーション活動を展開することで更なる誘致促進につなげる。

（1）誘致促進事業

支出予算 8,464 千円

① 誘致セールス

現在、国内では「国際会議観光都市」54 都市に限らず、MICE 誘致における都市間競争が激化している。そのような中、コンベンション開催助成金をはじめとする松山独自の開催支援メニューや航路でのアクセスの良さ、愛媛・松山の特色を生かした提案を行うことで、学協会等の全国大会や国際会議等、コンベンションをはじめ MICE を推進するためにセールス活動を行うなど、戦略的な誘致活動に取り組んでいく。

また、松山城、道後温泉本館等の地域の観光資源を活用したユニークメニューの紹介や新たな体験プログラムの開発にも取り組み、松山の魅力を主催者に訴求していく。

ア. 首都圏等での誘致セールス【拡充】

主として、首都圏に本部を置くコンベンション主催団体、学術会議本部、企業等に誘致セールスを行うとともに情報収集を行う。その他 MICE アンバサダー及び中四国内の大学等にも誘致セールスを行う。

イ. 愛媛県内での活動

県内の大学及び各種団体、企業、教育機関等を訪問し、情報収集を行うとともに松山市での開催を検討いただけるよう情報を発信し、誘致セールスを行う。

ウ. 松山 MICE ステークホルダー協議会

会議施設、宿泊施設及び交通機関等でのコンベンション開催情報を共有し、主催者や参加者への支援を充実していくための問題や課題を検討する場としてワーキンググループを設け、MICE 向け商品開発の必要性の理解促進、体制の強化を図る。

エ. セールスコンテンツの充実【拡充】

国際会議の誘致においては、松山のみならず県内近隣市町や近隣県と連携したエクスカージョンメニューの造成なども必要であることから、

国の支援事業なども活用しながらノウハウの蓄積を図る。

- ・AIRAPT-29（※1）開催を通じた大学連携、受入態勢の強化

（※1）国際高圧力学会の主催により、1965年以来2年に一度、欧・米・アジアを中心とした各国の持ち回りで開催されている、高圧力を利用した物理学・地球科学・化学・材料科学・生命科学などに関する学際的な国際会議で、愛媛県民文化会館において、2025年9月28日から10月3日までの6日間開催される予定

- ・WCGTC（世界才能児協議会）誘致の実施

オ. MICE メルマガ配信 【新規】

MICE メルマガによるステークホルダーとの情報共有の強化を図る。

② 第35回国際MICEエキスポ（IME2026）への出展

国際会議、学会・大会、企業ミーティング等、MICE開催を支援する国内唯一の商談会である「第34回国際MICEエキスポ（IME2025）」に出展し、全国大会をはじめとしたコンベンションや海外ミーティング・インセンティブツアーを松山に誘致するため、来場するMICE主催者に対して、セールス活動や商談を行う。

2023年度は大洲市、2024年度は今治市と合同で出展するなど、面的誘致強化に取り組む。

期 日 2026年2月12日（水）（予定）

場 所 東京都内（予定）

主 催 一般社団法人日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー（JCCB）
日本政府観光局（JNTO）

③ 誘致懇談会の開催

当協会が加盟する「中国・四国地区コンベンション推進協議会」や「7都市情報交換会」に属する各地方都市のコンベンション推進団体と、首都圏で誘致懇談会を開催し、コンベンション主催者である学協会等事務局を招き、情報交換やセールス活動を行う。

また、地元にある地方支部・団体等や有力者などのキーパーソンを招いて開催する、松山でのMICE地元誘致懇談会においては、地元ステークホルダーのMICEについて勉強する機会、各事業者の取組の成果の発表・商談の機会及び情報交換の場として提供できるよう実施する。

ア. 中四国地区コンベンション推進協議会事業

総 会 期 日 2025年7月頃（予定）

場 所 徳島市内

懇談会 期 日 2025年12月（予定）

場 所 東京都内

イ. 7都市情報交換会

情報交換会 期 日 2025年度中に随時（5～6回程度）

情報懇談会 期 日 2026年1月20日（予定）

場 所 東京會館 ロイヤル(予定)

ウ. MICE 地元誘致懇談会【拡充】

誘致懇談会 期 日 2025 年未定

場 所 松山市内

④ 海外からの誘致促進

令和 6 年度観光庁事業で策定した PV・画像を利用したプロモーション活動を積極的に行う。また、四国連携による Linkedin（世界最大級のビジネス特化型 SNS）への画像配信などで得たデータ情報を分析し、今後のプロモーションに活用する。併せて当協会独自の SNS による MICE 情報の発信も強化する。

ア. JNTO 主催 海外インセンティブ商談会（台湾）

期 日 2025 年 12 月頃（予定）

場 所 台湾台北市・台中市・高雄市など

イ. パリシップ会場でのプロモーション【新規】

期 日 2025 年 5 月 22 日～24 日

場 所 今治市

ウ. MICE 専用 SNS の運用

内 容 インスタグラム、Facebook、Linkedin など

（２）開催支援事業

支出予算 44,319 千円

① 各種助成金制度【拡充】

国際会議観光都市「松山」の発展、愛媛県・松山市の経済の活性化に寄与することを目的に、一定規模以上のコンベンションを開催する主催者を対象に開催経費の一部を交付要綱に基づき助成することで、誘致を促進する。

【助成制度の概要】

●基礎助成額【拡充】

延べ宿泊者数	R6. 4. 1～	～R6. 3. 31
50～99 人泊	50,000 円	—
100～199 人泊	150,000 円	100,000 円
200～299 人泊	300,000 円	200,000 円
300～499 人泊	450,000 円	300,000 円、400,000 円
500～699 人泊	600,000 円	500,000 円、600,000 円
700～999 人泊	750,000 円	600,000 円、700,000 円
1,000～1,999 人泊	1,000,000 円	800,000 円
2,000 人泊以上	1,200,000 円	900,000 円、1,000,000 円

●国際会議加算

延べ宿泊者数	R6. 4. 1～
50～299 人泊	300,000 円
300～999 人泊	500,000 円
1,000 人泊以上	800,000 円

●シャトルバス加算

延べ宿泊者数	R6. 4. 1～	～R6. 3. 31
500～999 人泊	300,000 円	150,000 円
1,000 人泊以上	600,000 円	300,000 円

●その他加算

区分	R6. 4. 1～	要件
市民公開講座等加算	50,000 円	大会参加者数が 100 人以上
郷土芸能・地元コンテンツ活用加算	50,000 円	大会参加者数が 600 人以上
託児サービス加算	50,000 円	
ユニークベニユー活用加算金	500,000 円	松山市ならではの歴史的建造物、文化施設や公的空間等で行うもの

② 歓迎用看板等の掲出

松山で開催されるコンベンションのうち、「全国規模の大会で県外参加者 1,000 人以上」または「国際会議」を対象に松山空港ビル内への歓迎用看板を掲出することで、大会主催者や県外参加者に対する「愛媛・松山」の高いホスピタリティの周知とイメージアップにつなげる。

③ 支援グッズの作成

コンベンション参加者に対し、SDGs に配慮した素材のコンGRESバッグやクーポン付きガイドブック「ようおいでたなもし」等を作成し、観光パンフレットとともに提供することで、参加者の利便性向上や観光情報の発信、高いホスピタリティを印象付け、参加者からの高い評価、満足度につなげるとともに、「愛媛・松山」への再訪に寄与させるために積極的に活用する。

ア. クーポン付きガイドブック「ようおいでたなもし」の作成・提供

イ. コンGRESバッグの作成・提供

ウ. その他支援事業

- ・屏風、バナー、みかんジュース蛇口の貸出
- ・坊っちゃん、マドンナ、法被の衣装貸出
- ・ユニークベニユーの紹介

松山市の歴史的建造物や文化施設等での会議の開催など、特別感や地域の特性を生かしたユニークベニユーの開発に取り組む。

④ サポートスタッフの派遣、育成

松山での MICE 開催の際、主催者からの依頼に応じ、大会の運営補助や観光案内業務等をサポートするためコンベンションボランティアを見直し、新たに松山 MICE 人材バンクスタッフを派遣する。

また、国際会議に対し、松山マドンナ大使の派遣や郷土芸能の提供を行うことで松山らしい開催支援を行い、参加者や事務局からの高い評価につなげることでリピート開催や関連大会の誘致を促進する。

＜派遣内容＞

- ・松山 MICE 人材バンク【新規】
- ・松山マドンナ大使
- ・郷土芸能（水軍太鼓、伊予万歳など）
- ・地元コンテンツ（じゃこ天実演販売、サンドアート、箏の BGM など）

⑤ その他

- ・令和 6 年度に観光庁事業で実施した二之丸史跡庭園ユニークベニュー等の磨き上げ
- ・県内他市町（大洲市、今治市など）とのアフターコンベンションコースの造成

（３）調査・研究事業

支出予算 1,781 千円

① 経済波及効果調査

開催助成金を交付したコンベンションを対象に調査し、その結果を元に地域への経済波及効果（直接効果）額を算出することで、助成金の費用対効果の検証のほか、基礎資料として将来のコンベンション振興に役立てるとともに、関係事業者や愛媛県民・松山市民へ当協会が実施するコンベンション推進事業への理解を深めてもらうために実施する。

また、観光庁の「MICE 開催による経済波及効果測定のための簡易測定モデル」を使用するとともに、統計の国際会議の定義を JNT0 の基準に合わせることで、統計の分析効果を高めていく。

② MICE 調査

愛媛県内で開催予定の大会情報を調査し、MICE カレンダーを作成する。カレンダーを当協会賛助会員に提供することで、営業活動の側面支援につなげ、地域経済の活性化につなげる。また、得られた情報を当協会の開催支援活動等に活用し、より円滑な事業実施に努める。

日本政府観光局（JNT0）や（一社）日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー（JCCB）が実施する研修会等に参加し、業務に関する知識や技能を習得し、実務能力の向上を図り、より効果的な業務遂行に努める。

また、JCCB が発行している開催意向調査データを活用し、効率的な誘致活動を行う。

さらに、コンベンションの業界団体である（一社）日本コンベンション協会の研修による業務知識の習得に加え、業界関係者との交流を深めることで、業界の最新情報を入手し、地元の MICE 関係者に還元していく。

主な研修会	開催時期	場所（予定）
MICE セミナー（初任者研修）	令和 7 年春頃	東京都
JCCB 人材育成セミナー（実務対象者）	令和 7 年冬頃	東京都

③ 管理システムの運用（コンベンション誘致のための営業支援ツール）

学協会等コンベンション主催者への訪問や、各種懇談会等における誘致セールス活動等を通じて得られた各種情報等を記録、営業を管理するシステム（セールスフォース）の運用を行う。また、これらを解析、活用し、より効果的、かつ的確な誘致活動を実施することで、事業の DX 化を行い、業務の効率化を図る。

Ⅱ．収益事業

予算総額（収入） 5,806 千円
（支出） 4,508 千円

1. 広告料収入事業

収入予算 986 千円

支出予算 60 千円

- （１）ロープウェイ駅舎３階壁面広告
- （２）物産陳列ケース
- （３）ロープウェイゴンドラ内広告
- （４）ホームページバナー広告

2. 手数料収入事業

収入予算 3,634 千円

支出予算 3,606 千円

案内所等での観光客に対するおもてなし並びに地元事業者が作成した記念グッズ等を預り販売することで収益に繋げる。

- （１）案内所での記念グッズ等販売による手数料
- （２）自動販売機での飲料等販売による手数料
- （３）松山城メダル販売による手数料

3. 販売収入事業

収入予算 1,186 千円

支出予算 842 千円

協会オリジナルグッズや名刺台紙等の作成販売により地元事業者の活用および自主財源の確保に繋げる。

- （１）名刺台紙販売
- （２）図書販売
- （３）ハンドタオル販売
- （４）オリジナルグッズ等販売

Ⅲ. その他管理事業等

予算総額 10,893 千円

1. 機関紙「Namoshi」作成

MICE の開催状況や各種観光情報並びに事業等を掲載した機関紙を年 2 回作成し、全国のコンベンション推進団体や賛助会員等に配布する。

また、ホームページ上にも掲載することで、協会の活動周知および情報提供を行う。

発行部数：各 4,000 部（年 2 回）

2. ホームページ等運営

協会ホームページの運営（情報の更新等）や Facebook、Instagram、X（旧 Twitter）等の SNS を活用した情報発信を行う。

随時、最新情報を発信することで観光客誘致を推進する。

3. 新規会員の確保

収入確保のために、新規会員の獲得に努める。

観光客等に対するおもてなし意識向上のため、地元事業者に最新情報の共有や新たなビジネスの創造等を図る。

4. 会議開催

各専門委員会の開催を随時行うほか、理事会・評議員会を必要に応じ適宜開催する。

- ・企画開発委員会
- ・誘客促進委員会
- ・観光物産振興委員会 など

5. 後援・共催・協賛事業

- (1) 坊っちゃん劇場第18作「新 鶴姫伝説～鎧に白い花を～」
期 日 2025年4月29日(火)～2026年3月(予定)
主 催 坊っちゃん劇場

- (2) 第60回松山まつり(協賛事業)
期 日 2025年8月中旬(予定)
主 催 松山まつり実行委員会

- (3) 第73回松山港まつり(協賛事業)
期 日 2025年8月(予定)
主 催 松山港まつり振興会

- (4) 坊っちゃんカップ第18回道後温泉卓球大会(共催事業)
期 日 2026年2月(予定)
主 催 (公財)松山市文化・スポーツ振興財団

- (5) 愛媛調理製菓専門学校「料理作品展」(協賛事業)
期 日 2026年2月(予定)
主 催 学校法人愛媛学園

収支予算書(正味財産増減計算ベース)内訳表

令和7年(2025年)4月1日から令和8年(2026年)3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計				収益事業等会計			法人会計	内部取引 控除	合計
	公1 (観光・物産)	公2 (コンベンション)	共通	小計	収1(販売等)	共通	小計			
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
基本財産運用益	0	0	695,000	695,000	0	0	0	0	0	695,000
基本財産利息収入			695,000	695,000			0			695,000
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息				0			0			0
受取会費	0	0	11,000,000	11,000,000	0	0	0	0	0	11,000,000
賛助会員会費収入			11,000,000	11,000,000			0	0		11,000,000
事業収益	2,500,000	720,000	0	3,220,000	5,806,000	0	5,806,000	0	0	9,026,000
広告料収入				0	986,000		986,000			986,000
手数料収入				0	3,634,000		3,634,000			3,634,000
販売収入		720,000		720,000	1,186,000		1,186,000			1,906,000
観光PR事業収入	0			0			0			0
物産と観光展手数料収入	2,500,000			2,500,000			0			2,500,000
受取補助金等	98,867,700	65,911,800	0	164,779,500	0	0	0	46,926,500	0	211,706,000
市補助金等収入	98,867,700	65,911,800	0	164,779,500			0	46,926,500		211,706,000
受取負担金	0	0	1,000,000	1,000,000	0	0	0	0	0	1,000,000
負担金収入			1,000,000	1,000,000			0			1,000,000
雑収益	0	0	50,000	50,000	0	0	0	268,000	0	318,000
受取利息			50,000	50,000			0			50,000
雇用保険料預り金				0			0	268,000		268,000
経常収益計	101,367,700	66,631,800	12,745,000	180,744,500	5,806,000	0	5,806,000	47,194,500	0	233,745,000
(2) 経常費用										
事業費	114,029,680	78,793,473	5,745,000	198,568,153	5,562,150	0	5,562,150		0	204,130,303
報酬	0	0	795,000	795,000	0	0	0			795,000
給料手当	17,137,000	17,891,000	2,227,000	37,255,000	0	0	0			37,255,000
賞与引当金繰入額	1,660,000	1,759,000	441,000	3,860,000	0	0	0			3,860,000
退職給付費用	280,680	313,473	0	594,153	0	0	0			594,153
福利厚生費	5,869,000	4,266,000	2,282,000	12,417,000	0	0	0			12,417,000
臨時雇賃金	0	0	0	0	0	0	0			0
会議費	2,189,000	1,510,000	0	3,699,000	0	0	0			3,699,000
旅費交通費	6,902,000	4,375,000	0	11,277,000	0	0	0			11,277,000
通信運搬費	9,928,000	462,000	0	10,390,000	0	0	0			10,390,000
什器備品減価償却費	0	0	0	0	0	0	0			0
消耗品費	4,042,000	3,870,000	0	7,912,000	811,000	0	811,000			8,723,000
印刷製本費	2,064,000	3,682,000	0	5,746,000	0	0	0			5,746,000
諸謝金	7,703,000	939,000	0	8,642,000	0	0	0			8,642,000
報償費	600,000	0	0	600,000	0	0	0			600,000
委託費	47,039,000	667,000	0	47,706,000	2,667,000	0	2,667,000			50,373,000
負担金支出	876,000	1,692,000	0	2,568,000	0	0	0			2,568,000
広告宣伝費	4,019,000	77,000	0	4,096,000	0	0	0			4,096,000
賃借料	1,248,000	162,000	0	1,410,000	213,000	0	213,000			1,623,000
修繕費	50,000	0	0	50,000	0	0	0			50,000
保険料	143,000	60,000	0	203,000	0	0	0			203,000
手数料	0	0	0	0	0	0	0			0
光熱水料費	0	0	0	0	424,000		424,000			424,000
租税公課	0	0	0	0	0	0	0			0
助成金支出	2,000,000	36,975,000	0	38,975,000	0	0	0			38,975,000
雑費	280,000	93,000	0	373,000	0	0	0			373,000
期首棚卸高				0	2,249,712		2,249,712			2,249,712
期末棚卸高				0	△ 802,562		△ 802,562			△ 802,562

科 目	公益目的事業会計				収益事業等会計			法人会計	内部取引 控除	合計
	公1 (観光・物産)	公2 (コンベンション)	共通	小計	収1(販売等)	共通	小計			
管理費								47,095,783	0	47,095,783
役員報酬								7,077,000		7,077,000
給料手当								19,455,000		19,455,000
福利厚生費								5,591,000		5,591,000
臨時雇賃金								0		0
賞与引当金繰入額								2,347,000		2,347,000
退職給付費用								1,732,783		1,732,783
会議費								318,000		318,000
旅費交通費								64,000		64,000
交際費								52,000		52,000
通信運搬費								1,517,000		1,517,000
手数料								206,000		206,000
消耗品費								2,066,000		2,066,000
印刷製本費								588,000		588,000
諸謝金								200,000		200,000
委託費								838,000		838,000
負担金支出								832,000		832,000
賃借料								2,543,000		2,543,000
修繕費								30,000		30,000
保険料								198,000		198,000
燃料費								188,000		188,000
光熱水料費								950,000		950,000
租税公課								300,000		300,000
減価償却費								0		0
有価証券運用損								0		0
雑費(予備費含まない)								3,000		3,000
経常費用計	114,029,680	78,793,473	5,745,000	198,568,153	5,562,150	0	5,562,150	47,095,783	0	251,226,086
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 12,661,980	△ 12,161,673	7,000,000	△ 17,823,653	243,850	0	243,850	98,717	0	△ 17,481,086
基本財産評価損益等				0			0			0
特定資産評価損益等				0			0			0
投資有価証券評価損益等				0			0			0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 12,661,980	△ 12,161,673	7,000,000	△ 17,823,653	243,850	0	243,850	98,717	0	△ 17,481,086
2. 経常外増減の部							0			
(1) 経常外収益							0			
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							0			
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0		0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額			0	0		0	0			0
当期一般正味財産増減額	△ 12,661,980	△ 12,161,673	7,000,000	△ 17,823,653	243,850	0	243,850	98,717	0	△ 17,481,086
一般正味財産期首残高	△ 113,490,819	△ 85,555,488	126,958,123	△ 72,088,184	12,213,461	△ 2,084,768	10,128,693	43,228,878	0	△ 18,730,613
一般正味財産期末残高	△ 126,152,799	△ 97,717,161	133,958,123	△ 89,911,837	12,457,311	△ 2,084,768	10,372,543	43,327,595	0	△ 36,211,699
Ⅱ 指定正味財産増減の部										
受取補助金等		0		0			0			0
一般正味財産への振替額							0			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	521,000,000	521,000,000	0	0	0	0	0	521,000,000
指定正味財産期末残高	0	0	521,000,000	521,000,000	0	0	0	0	0	521,000,000
Ⅲ 正味財産期末残高	△ 126,152,799	△ 97,717,161	654,958,123	431,088,163	12,457,311	△ 2,084,768	10,372,543	43,327,595	0	484,788,301

収支予算書(正味財産増減計算ベース)

令和7年(2025年)4月1日から令和8年(2026年)3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	695,000	362,000	333,000
基本財産利息収入	695,000	362,000	333,000
特定資産運用益	0	0	0
特定資産受取利息	0	0	0
受取会費	11,000,000	11,000,000	0
賛助会員会費収入	11,000,000	11,000,000	0
事業収益	9,026,000	8,222,000	804,000
広告料収入	986,000	1,120,000	△ 134,000
手数料収入	3,634,000	2,964,000	670,000
販売収入	1,906,000	1,638,000	268,000
観光PR事業収入	0	0	0
物産と観光展手数料収入	2,500,000	2,500,000	0
受取補助金等	211,706,000	191,553,000	20,153,000
市補助金等収入	211,706,000	191,553,000	20,153,000
受取負担金	1,000,000	1,000,000	0
負担金収入	1,000,000	1,000,000	0
雑収益	318,000	259,000	59,000
受取利息	50,000	1,000	49,000
雇用保険料預り金	268,000	258,000	10,000
経常収益計	233,745,000	212,396,000	21,349,000
(2) 経常費用			0
事業費	204,130,303	185,758,071	18,372,232
報酬	795,000	687,000	108,000
給料手当	37,255,000	31,553,000	5,702,000
賞与引当金繰入額	3,860,000	3,113,000	747,000
退職給付費用	594,153	539,061	55,092
福利厚生費	12,417,000	10,384,000	2,033,000
臨時雇賃金	0	0	0
会議費	3,699,000	2,240,000	1,459,000
旅費交通費	11,277,000	16,388,000	△ 5,111,000
通信運搬費	10,390,000	10,351,000	39,000
什器備品減価償却費	0	0	0
消耗品費	8,723,000	8,973,000	△ 250,000
印刷製本費	5,746,000	5,163,000	583,000
諸謝金	8,642,000	10,006,000	△ 1,364,000
報償費	600,000	600,000	0
委託費	50,373,000	44,870,000	5,503,000
負担金支出	2,568,000	1,949,000	619,000
広告宣伝費	4,096,000	4,227,000	△ 131,000
賃借料	1,623,000	3,004,000	△ 1,381,000
修繕費	50,000	90,000	△ 40,000
保険料	203,000	212,000	△ 9,000
手数料	0	26,000	△ 26,000
光熱水料費	424,000	571,000	△ 147,000
租税公課	0	0	0
助成金支出	38,975,000	30,500,000	8,475,000
雑費	373,000	343,000	30,000
期首棚卸高	2,249,712	1,334,767	914,945
期末棚卸高	△ 802,562	△ 1,365,757	563,195

管理費	47,095,783	48,363,960	△ 1,268,177
役員報酬	7,077,000	6,421,000	656,000
給料手当	19,455,000	21,059,000	△ 1,604,000
福利厚生費	5,591,000	5,072,000	519,000
臨時雇賃金	0	0	0
賞与引当金繰入額	2,347,000	2,434,000	△ 87,000
退職給付費用	1,732,783	2,170,960	△ 438,177
会議費	318,000	278,000	40,000
旅費交通費	64,000	64,000	0
交際費	52,000	52,000	0
通信運搬費	1,517,000	1,314,000	203,000
手数料	206,000	409,000	△ 203,000
消耗品費	2,066,000	1,969,000	97,000
印刷製本費	588,000	567,000	21,000
諸謝金	200,000	200,000	0
委託費	838,000	838,000	0
負担金支出	832,000	698,000	134,000
賃借料	2,543,000	2,911,000	△ 368,000
修繕費	30,000	30,000	0
保険料	198,000	190,000	8,000
燃料費	188,000	196,000	△ 8,000
光熱水料費	950,000	1,188,000	△ 238,000
租税公課	300,000	300,000	0
減価償却費	0	0	0
有価証券運用損	0	0	0
雑費(予備費含まない)	3,000	3,000	0
経常費用計	251,226,086	234,122,031	17,104,055
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 17,481,086	△ 21,726,031	4,244,945
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 17,481,086	△ 21,726,031	4,244,945
2. 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			0
退職給付費用			0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 17,481,086	△ 21,726,031	4,244,945
一般正味財産期首残高	△ 18,730,613	△ 9,915,409	△ 8,815,204
一般正味財産期末残高	△ 36,211,699	△ 31,641,440	△ 4,570,259
II 指定正味財産増減の部			0
受取補助金等	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	521,000,000	521,000,000	0
指定正味財産期末残高	521,000,000	521,000,000	0
III 正味財産期末残高	484,788,301	489,358,560	△ 4,570,259